

東京大学医学部・医学部附属病院
健康と医学の博物館

第10回企画展

見えざる ウイルスの世界

2016年4月21日(木)～8月31日(水)

常設展 近代から現代への医学の歩み
医学部と附属病院の150年

入場無料

開館時間 **10:00～17:00**

お昼休み 12:00～13:00 最終入場 16:30

休館日

毎週月曜日

※月曜日が祝日の場合は開館

「健康と医学の博物館」事務室
TEL. 03-5841-0813 E-mail mhm@m.u-tokyo.ac.jp

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内
医学部総合中央館(医学図書館)地下1階



健康と医学の博物館
Museum of Health and Medicine



当館は、平成23年1月20日の開館より5年が経過しました。おかげさまで9万人を超える来館者を迎えることができました。日頃からのご支援・ご協力に、改めて感謝を申し上げる次第です。

第10回企画展では、「ウイルス」を取り上げます。近年のインフルエンザの流行、デング熱の発生、ジカウイルス感染症の発症など、ウイルス性疾患が日々紹介されています。残念ながら、これらの話題が尽きることはありません。

「ウイルス」は、「毒液」または「粘液」を意味するラテン“virus”に由来しているようです。ウイルスの大きさは、ナノメートル（100万分の1ミリメートル）の単位で語られるもので、とても我々の目には見えないサイズのもので、見えざるウイルスは、我々の知らない間に、ヒトの身体に感染し、病原体としてふるまい疾患を引き起こします。

近年では、ウイルスをがんの治療に利用する取り組みもあります。ウイルスの性質を利用したこれらの研究を見ると、ウイルスは単に疾患を引き起こすだけの存在ではないことを知ることができます。

今回の企画展では、ウイルスの基本的な内容から、代表的な疾患、そして社会にインパクトを与えた疾患、そして本学の研究まで紹介します。その中で、見えないウイルスが引き起こすいろいろな側面を知っていただければと思います。

Zone 1

ウイルスの
基礎知識

Zone 2

身近にある
ウイルスの病気

Zone 3

ウイルスと
社会のかかわり

Zone 4

東大での取り組み

常設展

近代から現代への医学の歩み —— 医学部と附属病院の150年 ——

150余年にわたる医学部・医学部附属病院の業績・歴史の中で、特筆されるものを中心に紹介します。初期の時代にドイツ人教師によってもたらされた医学書、医療器具を展示し、人工癌などの世界的な業績を紹介します。

東京大学医学部総合中央館（医学図書館）B1F

健康と医学の博物館



医学部総合中央館（医学図書館）B1F
健康と医学の博物館

博物館入口は、バス通り沿いです。
医学図書館の入口とは異なります。

本郷三丁目駅（地下鉄丸ノ内線） 徒歩 8 分
本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） 徒歩 6 分

湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線） 徒歩 8 分
東大前駅（地下鉄南北線） 徒歩 10 分